

# 会 議 録

会 議 名	第1回 宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会			
開 催 日 時	平成14年 9月30日(月) 午後2時00分～午後3時30分			
開 催 場 所	宇都宮市役所 14階A会議室			
出 席 者		陣 内 雄 次	石 原 栄 子	上 野 弘 一
	懇談会委員	大 越 浩 子	高 橋 啓 子	三 宅 徹 治
		青 木 章 彦	谷 田 部 智 久	神 宮 由 美 子
	事 務 局	福田宇都宮市環境企画課長, 他9名		
公開・非公開	公開(本会議において会議の公開を決定)・傍聴人なし			
議 題	1. 会長, 副会長の選出 2. 議 事 (1) 会議及び会議録の公開について (2) 環境学習基本指針について (3) 指針の構成等について (4) 環境学習に関する意識調査の実施について (5) 環境学習の現状等に関する意見交換 3. その他 (1) 今後の策定スケジュールについて			

## 発言要旨 【1. 会長, 副会長の選出】

仮 議 長 (環境企画課長補佐)	会長・副会長の選出については, 本配布してある会議資料の「参考資料1 宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会設置要領」の第4条第1項に「懇談会に会長及び副会長を置き, 委員の互選によって定める。」とある。ご意見等ございましたらお願いします。
上 野 委 員	事務局の方で考えがあれば示していただきたい。
事 務 局	事務局からの提案として, 会長に栃木県環境学習推進指針検討委員会において会長を務められた陣内委員にお願いしたいと思う。副会長は, 市民団体代表として委員になられた神宮委員を推薦したいと思うがいかがか?
委 員 一 同	<b>(拍手をもって事務局案を了承)</b>
仮 議 長 (環境企画課長補佐)	それではご賛同いただきましたので, 会長に陣内委員, 副会長に神宮委員とすることに決定いたします。それでは, 会長と副会長は座席の移動をお願いいたします。以降の議事進行は, 会長の方をお願いします。

発言要旨 【 2 . 議 事 ( 1 ) 会議及び会議録の公開について】	
陣内会長	<p>具体的な議論に入る前に「会議及び会議録の公開」について決めさせていただきたい。配布されている資料のうち、「参考資料2 附属機関等の会議の公開に関する要領」を見ていただきたい。それによれば、このような会議は原則公開であって、その公開・非公開については当懇談会において決定することになっている。</p> <p>この懇談会については非公開とする理由がないので、会議については公開とし、傍聴希望者がいた場合は傍聴していただく。また、会議録については事務局の方で要点を整理してもらって発言者の名前も付けて公開するという事で決定したいと考えている。以上、会議自体の傍聴を認めるということと会議録の公開の二点について委員のみなさんの意見をいただきたい。</p>
委員一同	(異議なし)
陣内会長	では、当懇談会の会議及び会議録を公開するという事でよろしくお願ひいたします。

発言要旨 【 2 . 議 事 ( 2 ) 環境学習基本指針について】 【 " ( 3 ) 指針の構成等について】 【 " ( 4 ) 環境学習に関する意識調査の実施について】	
陣内会長	5 ページ 資料2の「策定の手順」の中に「市民団体ヒアリング調査」という項目があるが、いつ頃、どのような市民団体を対象として想定しているのか？
事務局	<p>現在対象となる市民団体を抽出中。当懇談会に参画いただいている委員の所属団体のほか、例えば、「グリーントラストうつのみや」や「消費者友の会」など10団体程度からのヒアリングを予定している。委員のみなさんも、「この団体はどうか？」といった情報があれば、ぜひ事務局にご連絡いただきたい。</p> <p>ヒアリングの調査項目については団体の概要・取り組んでいる環境学習関連活動・環境学習に対する意識・市への要望といったものを考えている。</p>
陣内会長	<p>指針策定後、これを生かしていくためには、いろいろな主体との協働・連携が重要である。なかでも市民グループは重要であるが、こうした団体は大小さまざまであり、データ上出てこない部分が多い。事務局の説明によれば、現在対象となる市民団体を抽出中とのことなので、委員のみなさんも「こういう団体はどうか？」といった推薦があれば事務局にお寄せいただきたい。</p> <p>他に今日配布されている資料についてなにか質問はありませんか？</p> <p>会議の最後にもう一度まとめて質問をしていただく時間を設けたいと思うので、この場は議事を先に進めたいと思う。</p>

発言要旨 【 2 . 議 事 ( 5 ) 環境学習の現状等に関する意見交換】	
陣内会長	<p>今回の懇談会のメインとなる「環境学習の現状等に関する意見交換」について、それぞれの委員の立場から環境学習に対する考えを3分程度で発言いただきたい。懇談会委員の名簿順ということでまず私から始めたいと思う。</p> <p>この指針では「宇都宮モデル」を示したい。学習指針である以上、普遍的に網羅しなければならぬ項目も当然あるが、その中で宇都宮らしさ、宇都宮の環境の現状をきちっと把握したものとしていきたいと考えている。</p>

	<p>「環境」・「学習」ということでは、いろんな主体、いろんな立場の人たちが連携していくことが重要。活動テーマをもった市民グループのような「テーマ型グループ」と自治会などの「地縁型グループ」の連携が重要であるが、これがどこでもうまくいっていない。そういうものを考えていかなければ環境学習そのものも広がっていかない。宇都宮市という県庁所在都市としての責任も指摘したい。宇都宮市で働いている方は、ここ（宇都宮市）に住んでいなくても、年間かなりの時間を過ごしていることになる。こういう人たちは宇都宮で働くことで環境への意識を高め、自分の住んでいる地域に帰ったときに地域のリーダーとして活躍できるようになる。このような広域的責任についても宇都宮市の環境学習指針の中に盛り込めれば、と考えている。</p> <p>計画は作っただけで終わりではない。環境学習指針を策定した後、どのように実効性を担保していくのか。きちっとした工程管理を「どういう基準で」「誰が」やっていくかを盛り込む必要がある。</p>
石原委員	<p>幼児期からの学習体系といったものを考えるときに重要なのは、子どもたちに何を教えるかという学習体系ではなくて、子どもをとりまく大人（親・先生・地域の人など）が何を行動するかという視点である。その行動のなかに子どもと一緒に参加することによって、子どもの体・心に沁みしていく体験活動を学習指針に盛り込んでいければ、と考えている。</p> <p>実際の保育園などの活動でも環境について取り組まれていることは多い。これらを指導する先生方など大人が意識化して子どもたちに伝えていくことが大切である。これが将来（20年、30年あるいは50年後）社会で活動していくときに生かされていければいいと考えている。楽しさをどれだけ蓄積できるかが将来にわたる意識のなかに残っていく鍵になる。</p>
上野委員	<p>私は小学校における環境教育の立場から現状について申し上げたい。ご承知のように、現在すべての小学校において環境教育が進められている。平成4年度に文部省から「環境教育指導資料 - 小学校編 - 」が出されていて、その中に環境教育の目標が明示されている。これを受ける形で、各小学校において具体的な計画を立てて実践している。</p> <p>本校（平石北小学校）の場合、年度当初指導計画を策定して全教職員に諮り、各教科領域や今年から始まった総合的な学習の時間の中で実践している。しかし、各教科には独自のねらいがあり、それに対して環境教育はすべての教育活動を通して実践されるべきものであるので、各教科の内容と全体的な環境教育との関連の一覧表を作成している。（例えば、年生のこの教科はこういう視点が環境教育と関連しているといったような）</p> <p>本校（平石北小学校）では、学区が鬼怒川に近く、柳田緑地公園などがあり、比較的自然環境に恵まれた地域である。1・2年生の生活科では今年度休耕田を利用して、「レンゲ畑で遊ぼう」というプログラムを実践している。レンゲ畑には当然レンゲ草だけでなく様々な自然が存在し、それらを体感することで感受性を育てることをねらいとしている。一方、最上級生である6年生は、鬼怒川を教材として、総合的な学習の中で「今、自分たちにできること - 地域のために何ができるのか - 」を学んでいる。例えば、鬼怒川河川敷のクリーン活動を行い、実践活動を通して、環境を汚している原因は何か、自分たちはどうあるべきなのかということを考えさせている。</p> <p>学校が完全五日制になったことにより、かえって子どもたちが忙しくなってしまう、（私たち教師も含めて）ゆとり感がなくなっている。本来は土日の休みには地域の環境にふれあうのが理想であるが、そうはいかないのが現状である。小学生のうちに自然とふれあう経験・体験をし、豊かな感受性を育むことは大切であり、その意味でも、環境教育を重視していかなければならないと考えている。</p>

大越委員	<p>中学校の子どもたちを見ていて、心の荒廃は環境の荒れとの関連が大きいと感じている。環境は、子どもたちの心を育てるうえで大きな役割を果たしていると思わずにいられない。</p> <p>環境教育として必要な項目として「関心・知識・態度・技能・評価・参加」の6つが挙げられている。まず関心を持たせ、知識の裏づけを与えることで態度化し、様々な活動に参加したり、環境の現状を評価したりすることができるようになる。</p> <p>中学校においても環境教育の指導計画を作成し、それに基づいて環境教育の推進に努めている。小学校と同様、中学校においても各教科の中に環境教育の要素が入ってきている。例えば、技術家庭科においては「生活の中で環境への影響を考えよう」というチェックリストがあり、「リサイクル」や「買い物袋の使用」「エコマーク商品の積極的購入」といった項目が挙げられている。また、日本とドイツの買い物袋の利用状況の比較や環境問題と食生活との関連などを学習している。理科や社会とは違い、数学や音楽・美術などは直接環境問題について学ぶわけではないが、環境教育を下から支える教科として環境教育の一翼を担っている。</p> <p>先ほど小学校の例として話が出たが、中学校においても生徒会などが中心となって、地域クリーン活動・清掃美化活動を行なっている。本校（若松原中学校）では近くに塚山古墳があるため、歴史的に価値のある遺跡であるという理解を深めながら、清掃活動を行なっている。また、夏休みの親子奉仕活動や学校農園づくりを通じて実践的な環境教育を行なっている。</p> <p>総合学習の時間では、2年生が環境について学習している。これは「環境」という大きな枠から生徒が各自テーマを設定し、研究するものである。どのようなテーマが選ばれているのか調べたところ、「リサイクル関係」（38名・全体の2割）、「水質汚濁」（38名・全体の2割）が多く、そのほか「ゴミ問題」「酸性雨」「ダイオキシン」「地球温暖化」など多岐にわたっている。このような問題に対し、自分たちは何ができるのかを学んでいる。</p>
高橋委員	<p>「人間の宝たりうるものは衣食住と健康の4つである。」という言葉がある。一人の人間が生きていくうえですべてのことが環境と関係しており、母親の胎内に命が芽生えたときから環境問題は始まっている。今やCO<sub>2</sub>も売買できる時代であり、身近かつ広範囲なものが環境問題である。</p> <p>会議所の代表としての立場からすれば、事業所から出されるゴミが大きな問題となっている。商工会議所の環境委員会ではISOに準じる認定をしたり、各職種別に30項目の環境に関するチェック事項を設け、一定の水準に達している会社を表彰したり、エコマークのシールを事業所内に貼り、環境問題に対する積極的な姿勢をアピールしたりするなどの取組みを行なっている。しかしながら、職種によっては30項目の環境に関するチェック事項に全く該当しないものもあり、各企業の環境に対する個別の取組みの把握が難しい。</p> <p>これから企業は、一般市民や自治会との関わりを考えていかなければならず、話し合いの場・コミュニケーションの場が必要であると感じている。ファーストフードの蔓延など、企業のあり方も子どもたちの実態と関わっているので、今後企業としても環境問題に力をいれていきたい。</p>
三宅委員	<p>富士重工業では平成11年にISO14001を取得した。こうした活動を下支えするのが環境教育であると考えている。環境活動では「全員参加 情報の共有化 活動成果のフィードバック」この3つが重要で、これを支えているのが学習である。私たちは製造業であるが、地球に対する負荷を減らしていくことを念頭においている。</p> <p>例えば、富士重工業では毎週月曜日15分程度朝会を行なっているが、第3月曜日は</p>

	<p>「環境の日」として全職場で教育を行なっている。また、EMS 教育を年 2 回 1 時間半かけて管理職を対象として行っており、その内容を全社員に展開している。</p> <p>さらに、階層別教育の中の一講座として環境について教育しているほか、社員全員が「環境カード」というものをもっている。そのカードには一人ひとりが立てた環境活動に関する目標を記入し、1 ヶ月に 1 回ちゃんと実行できているかどうかチェックをし、できたら次の新しい目標を立てるようにしている。一人ひとりが環境に関する何らかの活動をするということで、立てる目標は人によってバラバラ。ただし、自分自身でできるものとするようにしている。さらには、環境をチェックする能力を身につけさせるために隣の課をチェックする相互監視も実施している。</p> <p>(富士重工業は)街中に工場があるので、特に環境には注意しており、工場開放をし、環境活動や環境装置を地域住民の方にも見てもらっている。この他、緊急対応訓練や環境事例発表会を行い、賞を出す、といったことも実施している。</p> <p>現在(製造業は)、QCD(品質・コスト・納期)からこれらに E(環境)をプラスした QCDE が求められている。「環境」が経営のうえで重要なファクターであることをアピールし、環境にやさしい製品をつくりこんでいきたい。</p>
谷田部委員	<p>(私の所属する)「自然教室センスオブワンダー」の紹介から始めたい。センスオブワンダーはアメリカの作家レイチェルカーソンの著書に由来し、その訳である「自然の不思議さやすばらしさに目を見張る感性」をテーマに、次世代を担う子どもたちに環境教育を行なっている。具体的には小学校 4 年生から中学校 1 年生を対象に、森林公園・ふれあいビーチ・冒険活動センターといった市の施設を活用し、自然とより親しみ、守る活動を単発のイベントとしてではなく年 6 回開催している。</p> <p>知っていることと体験を通してわかったこととは、近いようで実は大きな隔たりがあるように思う。自然とふれあう方法・場の少なくなった子どもたちをナビゲートするのが私たち団体の役割である。</p> <p>実際に活動に参加している子どもたちは、環境教育を受けているという認識はないと思う。自然の中で知らず知らずのうちに環境に対する配慮や接し方を身に付けていくことが大切であろう。</p> <p>市民団体を運営している立場から申し上げると、ゆとりの時間を利用して活動しているため、活動を支える大人が不足している。私自身も本職は別に持っている。社会全体で、このような活動をしていくうえで必要な環境を整えていくことが重要である。</p>
神宮副会長	<p>住民活動の中で「どこにも学校はある」という発想からつくられた、市内にいくつかある市民グループをまとめたのが「生活学校連絡協議会」である。環境問題については、家庭の主婦の団体として一番関心のある「ゴミの減量化」から取組みを始めた。しかしながら、ゴミだけでは解決できないような複雑な環境問題が多くなって、専門的な知識がないと結論めいたことが言えなくなっているのが現状である。</p> <p>環境はいろいろなところに関わりをもっており、学校では様々な環境教育の取組みが行なわれているという話が学校の先生方からあったが、学校の門戸を開いて市民団体との交流の場を持ってもらいたい。学校と市民団体、あるいは私たち主婦の団体(まだまだ環境問題について専門的とは言えないが)のネットワークができれば環境はもっと良くなるのではないかな。</p> <p>市ではリサイクル推進員制度ができたようだが、活用されているのか? こういう制度ができればすべてが解決するというわけではないので、地域の中に環境リーダーが育つよう環境教育に力を入れなければならない。</p> <p>今の子どもたちは数字で判断する。(食べ物も)賞味期限を見て過ぎていれば全部捨ててしまう。これが本当の生活と言えるのだろうか? 自分の目・舌・鼻で確かめて生活</p>

	している私にはすべて数字で割り切ってしまう今の子どもたちが非常に危険に思えてしまう。もちろん表示をすべて無視してしまうのも問題だが、子どもたちには自分の生活「体験」を身に付けて欲しい。
陣内会長	委員のみなさんの話を聞いて感じたのは、それぞれの立場が連携していくことで、総合的に環境に目覚め、環境に対する意識を高めていくのだ、ということ。そのような社会環境を作っていくのが「環境学習基本指針」である。
上野委員	本校（平石北小学校）では、昨年まで授業のある土曜日を利用し、「メダカの学校」と連携した環境教育をしてきた。今年からは広く他校の子どもたちも含めた募集という形で実施し、20～30名の応募があった。このように学校の枠を越えた取組みもなっており、学校は環境問題に関して門戸を閉ざしているわけではない。 ただし、子ども（小・中学校）は環境問題の専門家ではない。鬼怒川の水質調査をしたいという声が子どもたちからあがったが、水質調査のための必要な技術・測定方法が教師にはわからない。そういう場合に技術者を学校に派遣してもらえれば、と思う。
大越委員	中学校は敷居が高く、まだ小学校の方が行きやすいとよく言われる。環境問題などで教師の専門外の話が出たときにどこに相談すればいいのか、あるいはどこで調べればいいのかわからない。
陣内会長	県の環境学習指針策定の際にも（今の大越委員と）同様の話題が出た。先生方が利用できるデータベースのようなものが必要。 学校の現状を考えると、先生たちと環境問題について専門的な知識を持った人たち（例えば本懇談会の三宅委員のような）が、場面場面で連携・協力しながら、授業をつくっていき、その授業で考えたことを実践する場が地域（自治会など）であるという流れになっていくのではないかと感じている。 委員のみなさんはもっと意見交換をしたいと考えていると思うが、時間が迫っているので、意見交換についてはここで終わりにして、次の「今後の策定スケジュールについて」に議事を進めたい。

発言要旨 【3.その他 (1) 今後の策定スケジュールについて】	
陣内会長	今の説明につき、なにか質問はございますか。 本懇談会は合計4回開催の予定ということで、本日の議論を聞いていると年4回というのはちょっときついかと感じている委員もいるかと思うが・・・。 次回の日程については、事務局で調整のうえ委員のみなさんに通知いたします。
三宅委員	第1回目ということでまだ責め所がわからないので・・・。今日は現状についての意見交換ができたが、それぞれの立場でどういう悩みがあるのかというウィークポイントを出し合うと、目指すべき環境教育とは何かということが見えてくるのではないかと。
陣内会長	「ウィークポイント」と「目指されている環境学習」について事務局の方で体系的に考えているものがあれば、次回の会議資料として提示していただきたいと思う。 本日の議事はこれで終了ということで、後は事務局でお願いします。
事務局	以上をもちまして「第1回宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会」を閉会いたします。 ありがとうございました。
閉会：午後3時30分	